

平成 2 1 年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号	27
------	----

自己評価

1 学校教育目標	誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体の上に、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。 (1) 社会で通用する確かな力を身につける教育の推進 (2) ルールやマナーを守り、社会的規範を大切にす生徒の育成 (3) 自ら健康と安全を管理する生徒の育成
2 評価する領域・分野	進路指導
3 今年度の具体的かつ明確な重点目標	生徒の発達段階に応じたキャリア教育の推進(自己の能力・適性の理解促進、職業観・勤労観の深化、進路決定能力の育成)
4 目標の達成に必要な具体的な取組	
(1) 2年生のインターンシップ、1年生の班別企業リサーチ(工場見学)を継続実施 (2) 自己理解、適性・能力確認のため、クレペリン検査、SPIテストを新たに実施 (3) 問題集による一般常識指導に加え、3年生での作文・小論文指導を継続実施 (4) 地域産業展の継続(4年目)、進学ガイダンス、進路講話(1, 2, 3学年ごと)の開催	
5 取組状況・実践内容等	6 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生全員に対し、夏期休業中に地元企業を訪問させ、工場の見学をさせた。 ・ 2年生全員に対し、夏期休業中に地元企業でインターンシップを実施した。 ・ 2年生でクレペリン検査、3年生でSPI基礎テストを新たに実施した。 ・ 3年生に対し作文・小論文教材を使った指導を2回に分けて実施した。 ・ 地元企業の活動内容を紹介する地域産業展を7月に開催した。 ・ 大学・専門学校等の協力を得て、進学ガイダンスを7月と12月に実施。 ・ 各学年に対し、LHRの時間を利用した進路講話・ガイダンスを2回ずつ実施。 	A A B A B B A
7 成果・課題	インターンシップや班別企業リサーチを通し、早期から地元企業の理解、就職への意識付けを行うことができた。不景気の中、十分な受入先の確保が今後も課題となる。また、職員による事前指導の準備等への考慮・工夫と部活動との十分な連携が必要。 厳しい就職情勢の中で受験倍率が増加し、就職試験不合格者が昨年より倍増した。特に、会話能力、熱意や学力の不足等が指摘された。 就職・進学とも進路選択や決定に向けての準備に消極的な生徒が若干いた。進路は自分で決めるんだという意識付けを徹底する必要がある。
総合評価 A B C D	
8 来年度に向けての改善方策案	
<ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップや班別企業リサーチ実施に向けての準備を早めに行い、受入先確保に努める。また、派遣先・日時希望調査の際に生徒が事前に顧問の了解を得るなど部活動と十分連携を図って計画を立てるとともに、担当者への事前指導のマニュアル、日誌等資料の配布をする。 ・ 進路講話・ガイダンスを通し、進路決定能力および会話能力の必要性を説き、日頃の職員との会話や発表の機会、地域や企業との連携を通して、コミュニケーション能力育成を図る。 	

学校関係者評価

実施年月日：平成 2 2 年 1 月 2 9 日

【意見・要望・評価等】

・
・